



五月前半は、四月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は前月比変わらずの五〇・一、予想の五〇を上回った事、中国国務院、就業率の安定した上昇を重要目標に設定し、新たな雇用促進策を発表した事、中国が利下げ(貸出しおよび預金の基準金利を〇・二五%引き下げ五・一%にする)、この半年で三回目の利下げに踏み切ったなどのプラス材料もあったが、四月の中国HSBC製造業PMI改定値は四八・九に下方修正、一年ぶり低水準だったこと、四月の中国貿易黒字は三四一・三四億ドル。予想は三九四・五億ドル。輸出は前年比六・四%減少(予想は二・四%増)、輸入は一六・二%減少(予想は一二%減少)と四月の中止の輸出入が減少したことなどのマイナス材料を受けたLMEアルミ相場はDOWN、五月十五日時点で一・八三七ドル(現物後場買戻)と月初価格から八一・五ドルDOWNの前半締めとなた。

後半は、ギリシャ政府がギリシャと債権団が実務レベルの合意書策定に着手と発表した事、四月の米住宅着工件数は前月比二〇・二%増の一三・五万件、予想は一〇・一・五万件だったことが小幅度上昇した事などプラス材料もあったが、ギリシャ政府がギリシャと債権団が実務レベルの合意書策定に着手と発表したが当の債権団が否定したこと、米消費者物価指数(CPI)コア指数が予想を上回ったことから年内の利上げ観測説が台頭したこと、FRB議長が米経済は1Qの減速から持ち直すとし、年内利上げの見方が台頭したことからDOWN、六月二日現在でLMEアルミ相場(現物後場)は一・七一〇ドルと後半スタート価格から一〇六・五ドルDOWNしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート(NTS)

一二〇・三三三→一二四・九〇(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比七・五%減の七一万二、一五五台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一・四%増の一〇万九、八八九台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・四%増の七万五、六一七戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金

今後も需要環境の大転換は期待難

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

が前年比八二・一%減の三八t、二次合金が二・一%減の一、四〇一t、前月比でスクラップが三三・九%の増の一萬二、三九〇t、アルミ缶が一四・三%増の三、四一八t。

輸入

輸入は新地金が前年比二・四%減の一五万二、一四七t、二次合金が六・九%減の九万一、四三〇t、スクラップが七・一%増の八五〇t、合金スクラップは八〇・八%増の六、七五一t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比五・五%減の六万八、六九八t。

■概況

(※)自動車生産【自動車販売】(住宅着工数)については四日付で掲載のマンスリーリポート(①参照)【アルミ圧延・押出品生産数】

板類

①缶材II三万七、七〇八t(四・四%増)

ボトル缶の好調や一部コーヒー缶のアルミニ化による需要増に加え、ビール系飲料の増加(前年は消費増税後で数量が落ち込んでもり、その反動増)により、プラスに反転。

②自動車II一万一、四八九t(五・〇%増)

国内乗用車生産台数は減少傾向にあるが(三月の生産台数七四〇千台、前年同月比八・一%減、アルミパネル材を採用する主に高級乗用車等の輸出増加に加え、トラック架台の需要増により、板材としては五月連続でプラス)、
③輸出II一万九、一四七t(二一・〇%増)
海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により、一二二月連続でプラス。プラス幅が前月から大幅に縮小したのは(三月五三・五%増→四月一・〇%増)、前年が素条輸出が始まった月で数字が高かつたことによるもの。

押出類

①建設II三万七、五〇九t(一六・五%減)

三月の新設住宅着工戸数は二三万方ぶりにプラスとなたが(二月の着工戸数六万九、八八七戸、前年同月比〇・七%増)、建設全体としては二〇カ月連続でマイナス。なお内・外装材等の大幅マイナス(二三・三%減は、前年が大雪の影響によるカーポート向け需要増で高かつたことによるもの。(六面へ続く)

アルミニスクラップ需給は低位安定

(四面より続く)
②自動車一万〇、六六七・〇(三・〇%減)
国内乗用車生産台数と連動し、七力月連續
でマイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産
実績】
生産は前年比九・三%減の六万一、七六八
t。七力月連續マイナス。

出荷は八・九%減の六万二、五四〇t。一
五力月連續マイナス。

うち、出荷先では、鋳物四・三%減、ダイ
カスト一一・四%減、板一・五%減、押出七・
三%減、鉄鋼一五・八%減、合金地金メーカー
九・三%減。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の七・五
%減。五月の国内販売台数が前年比一・四%
増、生産が一〇力月連續マイナスの中、販売
が二力月連續プラス、輸出も一・一%増とブ
ラス。この販売増の流れが五月も続くか今後
の動向に期待。

・新設住宅着工数は前年比〇・四%増。季
節調整済年率換算値で九一・三万戸(前月比
〇・七%減)と、前年比で二力月連續プラス。
季節調整済換算では一力月ぶりマイナスに転
じた。

・前月に続き自動車生産は減少するも販売
は二力月連續のプラス。ただ二次合金は生産
も小幅減少、出荷は相変わらず減少。
今後も大幅な改善は期待できないが大幅な
悪化もないとの見解。

・アルミ圧延・押出品生産数

【圧延品】

一部コーヒーフ缶のアルミ化による需要増に
加え、ビール系飲料の増加、アルミパネル材
を採用する主に高級車等の輸出増加、海外関
連工場への素条輸出の増加や円安による輸出
環境の好転等により好調。今後も好調が続く
のではないか。

【押出】

四月の住宅着工はプラスだったが、建設全
体としては一〇力月連續でマイナス。自動車
生産もマイナスだったことから今後も調整が
続くのではないか。

・輸入 LMEアルミの大幅下落を受けて
地金はマイナス、スクランプは円安を受けて
増加。

前記を踏まえアルミスクランプ需給は低位
安定との見解。

【価格・為替予想】
今月は、アメリカの利上げ時期、ギリシャ
債務問題に左右される。

米利上げ時期に関しては先月の時点ではま
だ六月説が残っていたものの、すでに六月に
入りており今月に利上げが実行されることは
ない。ただ米消費者物価指数(CPI)コア
指數が予想を上回ったことや、FRBイエ
ン議長が米経済は1Qの減速から持ち直すと
し、年内利上げの見方が台頭。年内利上げの
可能性も高い。

ギリシャの債務問題に関しては、今月中に
IMFへ一六億ユーロの返済が迫っている
が、返済の資金はなく欧州諸国との資金借り
入れについて現在も交渉中。現状どうなるか
の判断はできない。

それらを踏まえた六月のアルミ価格は、
FRBの利上げ時期が来年以降に後退し、ギリ
シャがIMFへの返済をした場合、五月高
値の一・九〇〇ドルを予測。いずれかの場合
は一・七〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場
合、もう一段安値の一・六〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて年内説が
台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題
でのユーロ安から五月中もドル高傾向がつづ
くのではないか?

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上
値は一二〇円台。下値はギリシャが今月末の
IMFへの返済ができなかつた場合、一二七
円台を予測。(TTM)

メーカースクラップ購入価格は〇から一〇

年換算で一〇兆円に縮小

一・三月期の需給ギャップ

内閣府は四日、日本経済の潜在的な供給力
と実際の需要の差に相当する需給ギャップが
二〇一五年一・三月期にマイナス一・九%と
なり、一四年一・十二月期のマイナス二・三
%から縮小したとの推計を発表した。年換算
で約一〇兆円の需要不足。

一五年一・三月期の実質GDP(国内総
生産)成長率が年率換算で前期比二・四%
増と、潜在成長率(〇・六%増)を上回つ
たことで、需給ギャップは二四半期連續で
改善した。

一四年度の需給ギャップはマイナス二・一
%と、一三年度のマイナス〇・六%から拡大
した。消費税増税に伴う駆け込み需要の反動
などが響いた。